

2章 第5期スイッチON磯子について

(1) 基本理念と基本目標

第4期計画の振返りの中で、コロナ禍によって地域活動が停滞したことなどから、人や地域のつながりが大切と再認識がありました。

このことから、つながりを作るためにまずはお互いを知り、例えば地域の行事などに出ることで、ともに支えあう関係性になっていく順序に着目します。まずは身近な人のことを知り、顔見知りになった先に地域とのつながりがあり、地域とのつながりが心身の健康と支えあいの関係となっていくことを基本目標に表現しました。

なお、基本理念は大きく変わるものではないということ、区民の皆さんに定着していくよう、第4期計画から継続することとしています。

基本理念

誰もが幸せに暮らせるまちを みんなでめざす



スイッチON磯子の基本理念が引き続き定着していくよう、第4期計画から継続します！

基本目標

I お互いに認めあい 自分らしく暮らせるまち

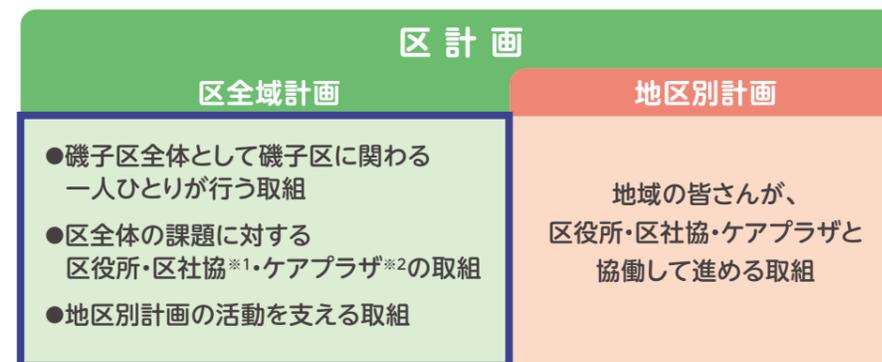
II つながりを通して 健やかに暮らせるまち

III 共に支えあう お互いさまのまち

	基本目標	目標のイメージ
I	お互いに認めあい 自分らしく暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ●自分のことも周りの人のことも認め、大切にしている・されている ●好きなこと、できることを生かして自分らしく暮らしている ●身近なところに居場所や参加の入口がある
II	つながりを通して 健やかに暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ●必要とする人に情報や支援が届いている ●みんなが地域とつながる機会がある ●地域で得意を生かす場がある ●身近な健康づくりに取り組める場がある ●心と体の健康が大切という意識が高まっている
III	共に支えあう お互いさまのまち	<ul style="list-style-type: none"> ●さりげない見守りの中で、支援が必要な人もそうでない人も、安心して暮らしている ●ときに支え、支えられるという関係性や仕組みがある ●それぞれの強みを生かして協力し、活動が広がっている

(2) 区全域計画

区全域計画とは、区全体の方向を示し、区民一人ひとりから、団体・関係機関が区域全体で進めていく取組をまとめたものです。



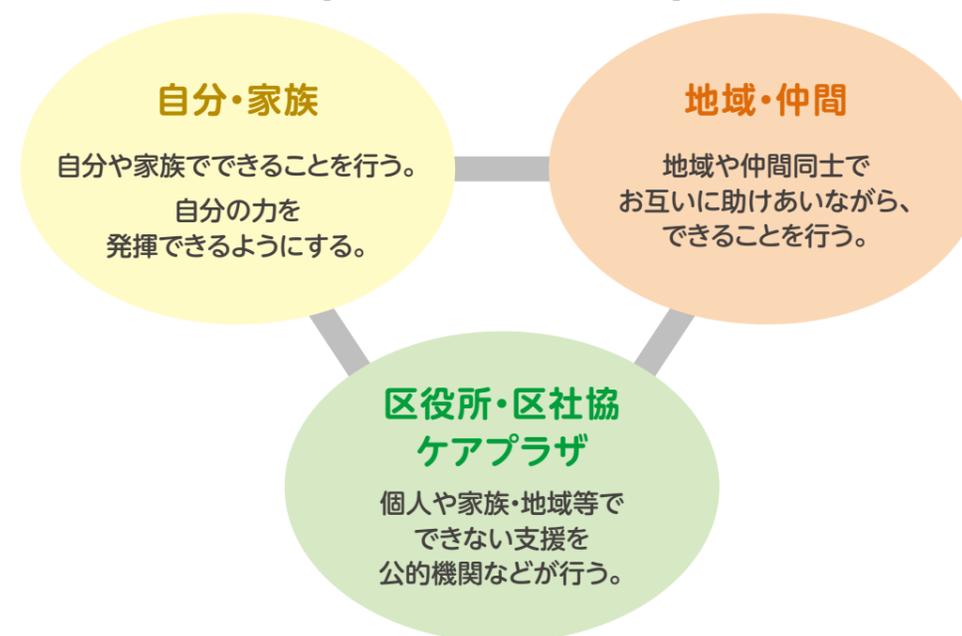
※1:区社会福祉協議会の略称 ※2:地域ケアプラザの略称

区全域計画を推進する主体

- 磯子区に関わる一人ひとり(私たち一人ひとり、地域や仲間)
- 区役所・区社協・ケアプラザなどの公的機関とその関係機関

一人ひとり・地域や仲間・公的機関などそれぞれが補いあい、関連しあいながら、基本理念「誰もが安心して暮らせるまち」をめざします。

【スイッチON磯子 推進主体】



区役所・区社協・ケアプラザの取組は、「活動指標」と「めざす方向性」を明示し、基本目標を達成するために、どの程度活動したか、量的評価を行います(53ページ参照)。

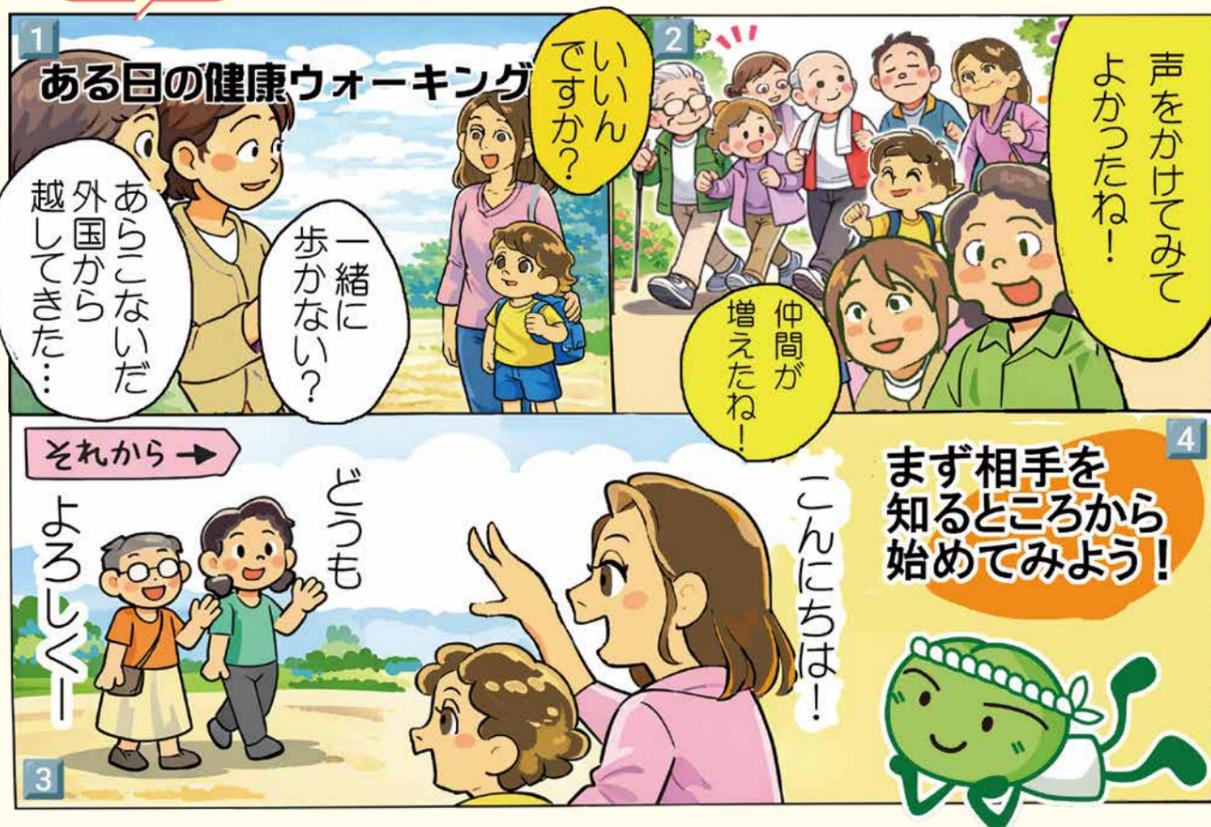
目標のイメージ

- ◆自分のことも周りの人のことも認め、大切にしている・されている
- ◆好きなこと、できることを生かして自分らしく暮らしている
- ◆身近なところに居場所や参加の入口がある

一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること

- 隣近所の人へあいさつしてみよう
- 利用できる福祉サービス等を確認しておこう
- 一人ひとりの違いや個性を理解しよう
 - (区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)
 - 「多文化共生の推進」18ページへ 「認知症サポーター養成講座」18ページへ
- 地域での居場所やイベントに参加してみよう
 - (区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)
 - 「同じ悩みを持った人が集まる場づくり」18ページへ

エピソード



区役所・区社協・ケアプラザの取組

- 年齢や障害の有無、国籍に関わらず、違いや多様性を認めあい、様々な人が共に暮らせるよう相互理解を深めます。

事業例:区役所 多文化共生の推進

多文化共生の拠点となる「いそご多文化共生ラウンジ」(P50④参照)を中心に、地域と連携し、交流イベントや外国人住民の地域イベントへの参加促進などの取組を通じて、国籍や文化的背景に関わらず暮らしやすい地域づくりを進めます。

活動指標 多文化共生ラウンジ利用者数(イベント参加者など含む)
令和6年度:3,857人(めざす方向性:↗)



外国人住民向け防災座談会

- こどもが心身ともに健やかに成長し、養育者が安心して子育てをするために必要な知識の普及や相談しやすい環境づくりに取り組みます。

事業例:区役所 地域子育て支援拠点「いそピヨ」の運営支援

「いそピヨ」(P50①参照)では、就学前の子どもとその保護者が遊び、交流する場の提供や、子育て相談、研修会などを実施しています。令和7年度からは、月1回程度の日曜日開所(Sundayいそピヨ)も開始し、平日忙しいご家族のお出かけ先としても好評です。

活動指標 Sundayいそピヨで開催している講座などの参加者数
令和6年度:新規事業のためなし(めざす方向性:↗)



いそピヨでの様子

- 地域の福祉活動を多くの住民に知ってもらう機会を増やすと同時に、学校との連携や活動者団体同士の顔の見える関係づくりを進めます。

事業例:区社協・ケアプラザ 福祉教育

学校・地域・企業などからの相談にもとづき、福祉教育(P59参照)プログラムを実施し、幅広い区民を対象に福祉への理解・啓発を行います。

活動指標 福祉教育 実施数
令和6年度:16講座(めざす方向性:→)



車いす体験の様子

- 認知症の理解啓発など、一人ひとりがかけがえのない存在として権利と尊厳が守られ、その人らしい生活を続けられる仕組みづくりをします。

事業例:区役所・ケアプラザ 認知症サポーター養成講座

区内のケアプラザなどがキャラバン・メイトと連携し、認知症サポーター養成講座を実施します。

活動指標 認知症サポーター養成講座受講者数(累計)
令和6年度:23,312人(めざす方向性:↗)



養成講座中の寸劇の様子

- 同じ悩みを持った人や仲間が、お互いを知りあえるきっかけとなるようなつながる場・学びの場を提供します。

事業例:ケアプラザ 同じ悩みを持った人が集まる場づくり

不安な気持ちや心配事を話せるよう、同じ悩みを持った人が気軽に話したり情報交換できるつどいやカフェを実施します。

活動指標 同じ悩みを持った人が集まる場の開催数
令和6年度:159回(めざす方向性:→)



介護者の集い(イメージ)



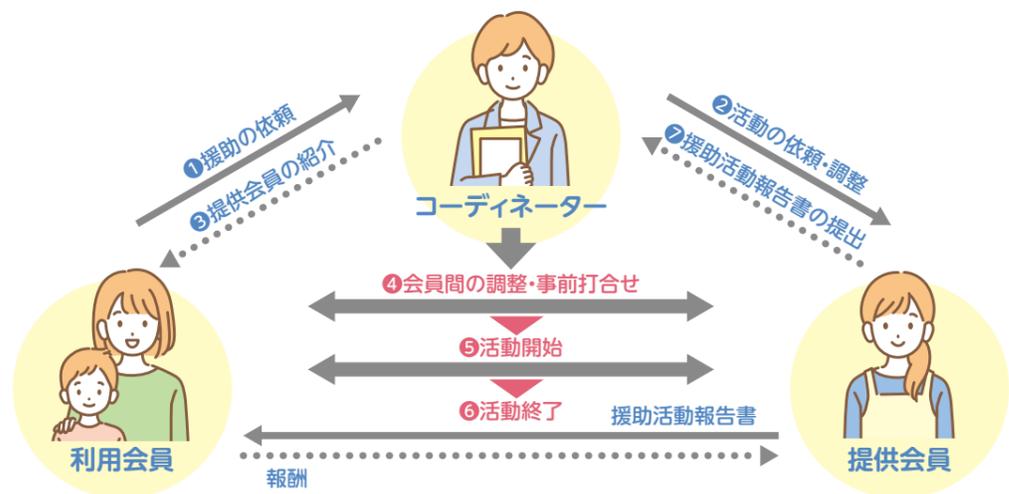
こんな取組もあります //

▶ 横浜子育てサポートシステム(通称「子サポ」)

～ 地域ぐるみでの子育て支援をめざして ～

横浜市では、こどもを預かってほしい人(利用会員)と、こどもを預かる人(提供会員)に会員登録していただき、条件の合う近隣の人との出会いをサポートする、「子サポ」を実施しています。通院や冠婚葬祭、就業等の事情による利用会員宅等での預かり、保育所や幼稚園等への送迎のほか、買い物や習い事等、リフレッシュしたり自分の時間を持ちたい場合でも利用することができます。(令和6年度末時点 利用会員685人、提供会員96人、両方会員※利用・提供ともに行う会員24人 年間活動件数3,611件)

磯子区では、磯子区地域子育て支援拠点「いそピヨ」で「子サポ」に関する手続きを行っています。
利用会員の皆さんからは、「週に1～2回利用しています。一時預かりの予約が取れない時に、助かっています」「子育ての先輩に新しい遊びを覚えてもらえることもあります」といった感謝の声が聞かれています。
また、提供会員の皆さんからは、「こどもが好きで、何かお手伝いできればと思い、提供会員になりました」「お預かりしたお子さんに地域でバツリ会って声をかけてもらうと、とても嬉しいです」「活動を通じて友達もできました」という嬉しい声も聞かれ、地域の中の支えあい・つながりづくりにもなっています。
子育て中のママ・パパをサポートしたい人、子育て経験のある人、ぜひ自分ができることを身近な地域の支えあいに役立ててみませんか?



問合せ先 地域子育て支援拠点 いそピヨ(P50①参照) [いそピヨ 子サポ](#)

▶ 「いそごでさがそ」でお気に入りを見つけよう

「いそごでさがそ」は、障害のある人が区内障害者施設にて作っている自主製品やカフェ等を写真で紹介している冊子です。
より多くの区民の人に冊子を手にとってもらい、障害のある人が自分たちで製品を作っているこの活動について知ってほしい、障害のある人の活動を身近に感じてほしいという思いで作成しています。
各郵便局、駅のPRボックス(磯子駅、新杉田駅など)、区役所で配架中。
この冊子で、あなたのお気に入りのお菓子やグッズを見つけてみませんか?

問合せ先 区役所 高齢・障害支援課(P60参照)



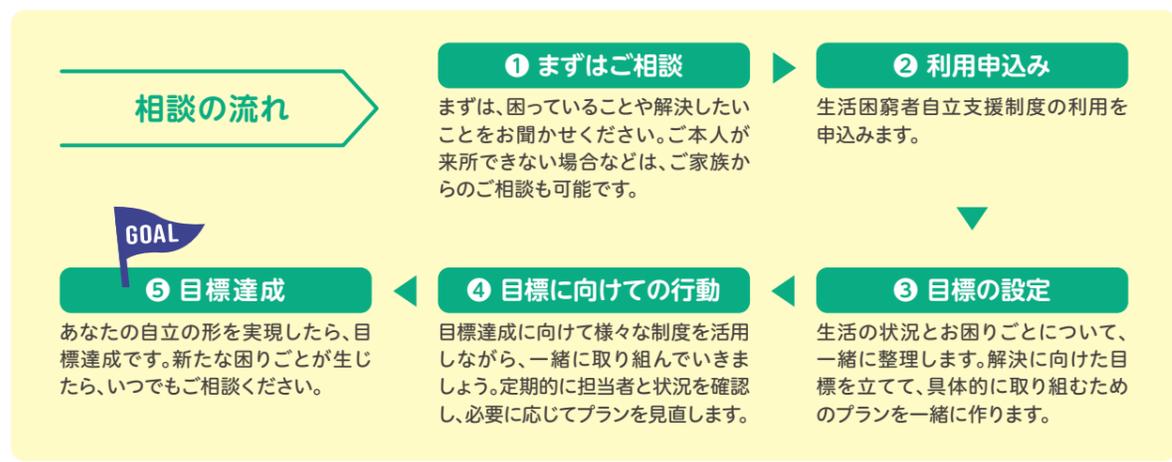
▶ 生活困窮者自立支援制度

～ 暮らしの困った! を一人で悩まず、相談してみませんか? ～

「仕事が見つからない」「家計が苦しい」「こどもの学習環境が心配」そんな声に寄り添うのが、生活困窮者自立支援制度です。お仕事探し、家計の悩みのアドバイス、一時的な衣食住の提供、こどもの学習サポート等、生活の困りごとを抱えている人に寄り添い、解決策を一緒に考えます。

「困窮」とは、経済的な困窮だけを意味しているのではなく、様々な事情により地域社会から孤立し、「相談する人がいない」という状態の人も含まれます。失業や介護・育児の困難、健康問題等、様々なきっかけで困窮状態になってしまうこともあります。

生活が困窮状態にある人は、自分から相談しづらいかもしれません。あなたのまわりにそんな思いを抱えている人がいたら、区役所の相談窓口(生活支援課)をご紹介ください。あなたの気づきが、誰もが安心して暮らせるまちづくりの土台となるかもしれません。



問合せ先 区役所 生活支援課(P61参照)

▶ こどもたちと地域がつながって、いいね!

～ こどもたちが主役となる地域の活動をはぐくむ ～

近年、こどもたちと地域とのつながりが少なくなっているという声があります。
そこで、地域や団体・学校等がサポートし、こどもたちが役割を持ち、楽しみながら関わられるような活動に取り組んでいる地域もあります。

こどもたちはワクワクした楽しいことが大好きです。
地域のハロウィンのお手伝いや、季節のイベント企画等、ちょっとしたワクワク体験が「やってみよう!」「自分にもできる!」につながり、主体性も育まれます。大人が温かく見守り、こどもの声を取り入れることで、地域もこどもも元気になります。

こうした温かいつながりが、地域の中で“こどもたちが主役となる場”や、“こどもたちの主体的な活動”を作っていくきっかけになるのではないのでしょうか。



きっずマーケット

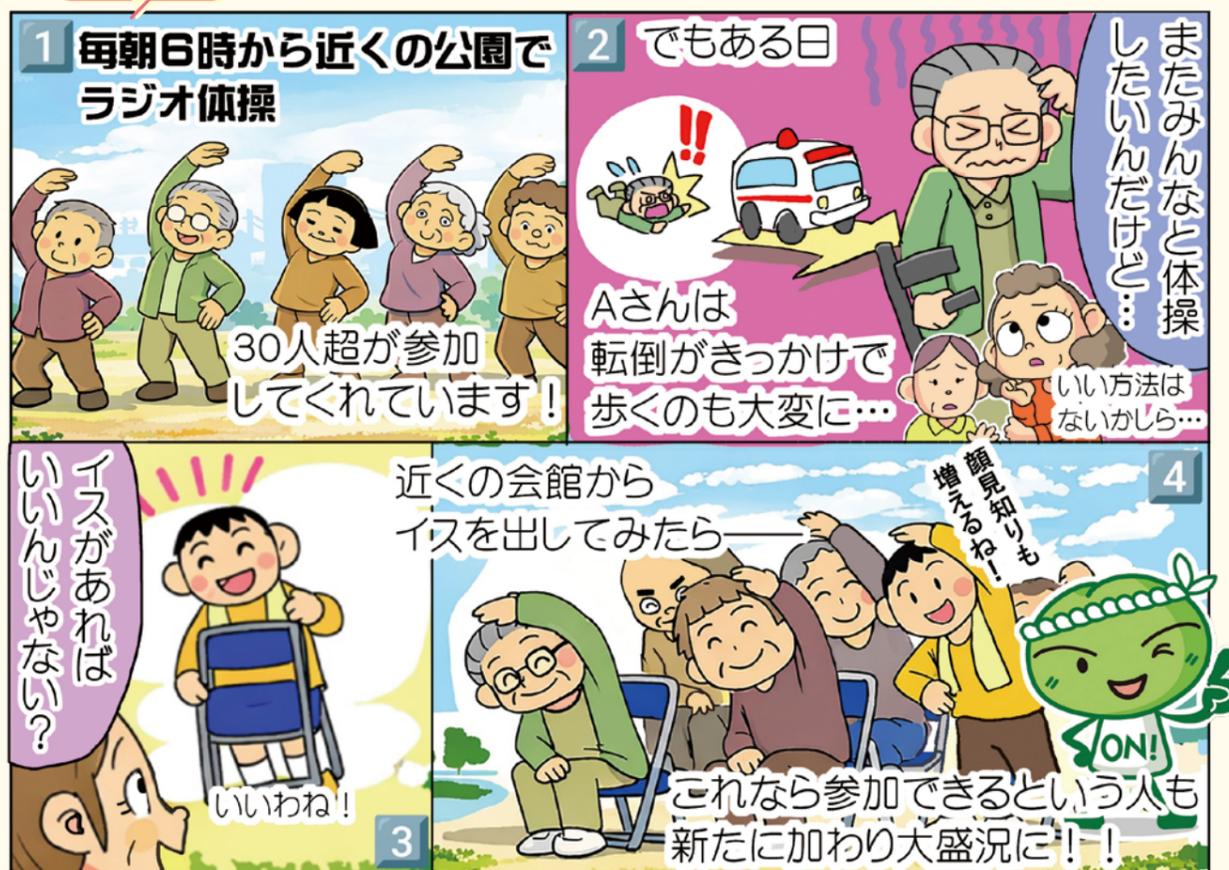
目標のイメージ

- ◆必要とする人に情報や支援が届く
- ◆みんなが地域とつながる機会がある
- ◆地域で得意を生かす場がある
- ◆身近な健康づくりに取り組める場がある
- ◆心と体の健康が大切という意識が高まっている

一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること

- 地域の情報等に関心を持つ ●定期的に健康診断や歯科検診に行こう
- ウォーキング等できることからやってみよう
- 健康づくりのイベントや講座等に参加してみよう
→(区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)「ポッチャなどインクルーシブスポーツの取組」22ページへ
- 伝える人に合わせた情報の届け方を考えよう
→(区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)「自治会町内会のデジタル化」24ページへ
- ボランティア活動等で自分ができることをやってみよう
→(区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)「ボランティアセンター」22ページへ 「こども食堂の取組」24ページへ

エピソード



区役所・区社協・ケアプラザの取組

- 健康づくりや介護予防活動等に参加する人や関心を持つ人を増やし、人材育成につなげます。

事業例:区役所 フレイル予防サポーター養成講座

地域で健康づくり・介護予防の取組を推進する人材を育成し、フレイル予防の普及啓発や地域活動の活性化をめざします。

活動指標 フレイル予防サポーター登録者数(累計)
令和6年度:38人(めざす方向性:↗)



磯子区フレイル予防サポーターの皆さん

- 得意なことを生かせる機会や場の紹介や、活動を広げていけるよう支援します。

事業例:区社協 ボランティアセンターの運営

ボランティアに関係する相談やコーディネートを行うほか、人材育成やネットワークづくりを行います。

活動指標 ボランティア登録数
令和6年度:260人・48グループ(めざす方向性:→)



ボランティアセンター受付

- すべての年代の人が、心身の健康づくりに継続して取り組めるよう、身近な地域でつながりを増やしながらか、健康づくりの活動を広げていけるよう支援します。

事業例:ケアプラザ ポッチャなどインクルーシブスポーツの取組

世代や障害の有無に関わらずできるスポーツ(=インクルーシブスポーツ P59参照)や、健康づくりの取組を実施します。

活動指標 世代や障害の有無に関わらずできる健康づくりの取組回数
令和6年度:72回(めざす方向性:→)



ポッチャ大会の様子

- 地域の福祉保健に関する情報や地域情報などについて、情報発信・収集・活用ができるよう推進します。

事業例:区役所 出張!健康づくり応援隊

働き世代の区民の皆さんを対象に、食育・歯科口腔・運動・禁煙・検診・感染症の予防に関する啓発を保健活動推進員(P51参照)や区内企業などと連携して行います。

活動指標 出張!健康づくり応援隊参加人数
令和6年度:350人(めざす方向性:↗)



保健活動推進員による血管年齢測定

- 身近な地域や場所で、区民の皆さんにとって必要な情報を届けます。

事業例:ケアプラザ 地域主催の講座などでの情報提供

ケアプラザ以外の会場や地域主催のサロン等、ケアプラザ職員が出向き、様々な機会を捉えて介護予防・健康・詐欺防止等の情報を伝えます。

活動指標 地域主催の講座等での情報提供の回数
令和6年度:184回(めざす方向性:→)



ケアプラザの出張講座



▶ 区民の口の健康を守る!

区役所では毎年6月の「歯と口の健康週間」に合わせ、磯子区歯科医師会と連携して、歯とお口の健康に関するイベントを実施しています。

歯ブラシ等の使い方から、噛む力の測定、歯科医師・歯科衛生士の無料相談まで、体験メニューが豊富で、参加者からは「噛むことの大切さを知ることができた」「こどもにもパネルや映像を見せたい」との声も。

ひとりでも多くの区民の人に、お口の健康の大切さが伝わるよう、今後も歯科医師会とともに取り組んでいきます。

問合せ先 区役所 福祉保健課(P60参照)



出張! 健康づくり応援隊

▶ 磯子の魅力発信ポータルサイト「ISOGO+」を使ってまちに出てみよう

「ISOGO+」(いそごぶらす、“いそぶら”)は、磯子のまちを「ぶらぶら」と歩きたくなる情報が集まるプラットフォームとして、様々な地域の魅力をお届けしています。

みんなのおすすめスポットやまち歩き情報、地域に根付き愛されている「磯子の逸品」を紹介。区制100周年を契機に磯子への愛着や誇りを深め、魅力と活気が未来へと続いていくまちをめざします。

問合せ先 区役所 区政推進課(P61参照)



ISOGO+ [いそごぶらす]
<https://isogoplus.city.yokohama.lg.jp/>



▶ 自治会町内会のデジタル化が進んでいます!

区役所では、自治会町内会へICTの専門的なアドバイザーによる出張講座や相談会を開催し、自治会町内会の情報発信等のデジタル化をお手伝いしています。

デジタル化の第一歩を考えている自治会町内会には、初心者向けスマホ講座を開催したり、さらに活用を考えている自治会町内会には、ホームページ作成やLINEなどのSNS情報発信ツール導入のサポートを行い、事務の効率化に役立てています。防災意識の高まりもあり、今後、連絡ツールとしてデジタル化の活用が想定されます。まずは自治会町内会の情報のデジタル化について、関心を持ってもらえるように考えてみませんか?



アドバイザーによるスマホ講習会

問合せ先 区役所 地域振興課(P61参照)



ホームページの開設

▶ こども食堂の取組 ~お腹も心もいっぱい~

かつて、新型コロナウイルス感染症の影響で活動休止を余儀なくされたこども食堂がありました。その後、コロナ禍が収束しても再開は難しいかと思われていましたが、こども食堂に参加していた保護者が当時のボランティアに「とても素敵な場所だったので、ぜひ復活させてほしい。私も手伝います!」と声をかけてくださったことから、再開が実現しました。

生まれ変わったそのこども食堂はたくさんのボランティアに支えられています。再開を待ちわびていたボランティア、郵便局やコンビニエンスストア、掲示板等に貼った募集チラシを見て連絡をしてくださった人、以前こどもがお世話になったから今回一肌脱ごう!と参加してくださる人もいます。

みんなが負担感なく楽しく活動できるよう、調理担当、ホール担当、後片付け担当等々、細かく分担を分けて短時間だけのボランティアもできるよう工夫もしています。そのため、自分の得意や好きなことを生かして無理なく活動でき、19歳から80歳までが和気あいあいと活動しています。

今月もこどもたちのにぎやかな声が聞こえます。

「お腹も心もいっぱい。」

今参加してくれているこどもたちが、楽しかった思い出を胸にいつか地域で活躍してくれることを期待して、おいしい食事と楽しい空間をつくり続けます。



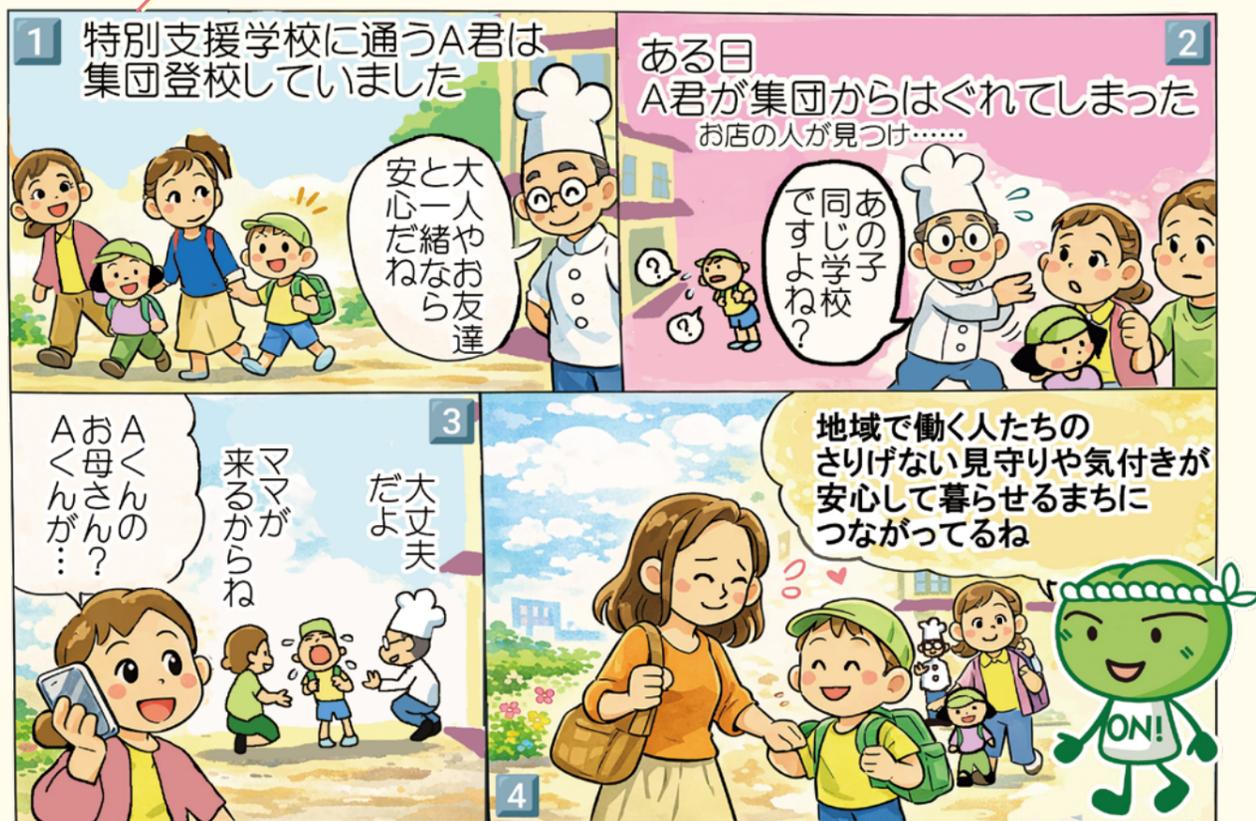
目標のイメージ

- ◆さりげない見守りの中で、支援が必要な人もそうでない人も、安心して暮らしている
- ◆ときに支え、支えられるという関係性や仕組みがある
- ◆それぞれの強みを生かし協力し、活動が広がっている

一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること

- 困ったときはお互いさまの気持ちで、日常生活でのちょっとした困りごとを手伝ってみよう
- 隣近所の人の様子を気にかけてよう
- 災害時に隣近所の人と連携してできることを考えよう
→(区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)「防災講座」26ページへ
- 強みを生かして地域の活動を盛り上げていこう
→(区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)「ボランティア交流支援」27ページへ

エピソード



区役所・区社協・ケアプラザの取組

- 民生委員・児童委員、自治会町内会等の見守り支えあいなどを通して、顔の見える関係づくりや支援の必要な人が専門機関の相談につながるよう支援します。

事業例:区役所・区社協・ケアプラザ 民生委員・児童委員の活動支援

身近な福祉の相談役である民生委員・児童委員(P51参照)が活動しやすくなるよう支援制度に係る情報提供や研修・広報のサポート等に取り組みます。

活動指標 民生委員・児童委員による高齢者等の訪問件数
令和6年度:34,841人(めざす方向性:→)



民生委員・児童委員の訪問

- 地域活動を活発にするために、活動する人の育成とともに、こどものころから地域とつながる機会を提供します。

事業例:区役所 若者世代へのボランティア活動支援

ボランティアに興味がある若者世代を地域に派遣することにより、活動のやりがいや楽しさを感じてもらい、地域活動の参加者の裾野を広げます。

活動指標 ボランティア派遣人数
令和6年度:237人(めざす方向性:↗)



学生ボランティアの活動

- 防災や災害対策について広報し、区民一人ひとりの防災意識を高める「自助」「共助」の取組を啓発するとともに、ボランティアや関係機関とのネットワークを強化していきます。

事業例:区役所 防災講座

大規模地震や風水害等に対する備えや避難行動等に関する講座を、地域・小中学校・各種団体・事業所等に対し実施します。

活動指標 防災アンケート
「災害に備えて3日以上防災備蓄を行っている」回答した人の割合
令和6年度:活動指標なし(めざす方向性:↗)



自治会館での防災講座

- 地域に関わる人みんなで話しあい、考えるプロセスを大切に、地域課題の解決に向けた取組を進めます。

事業例:区社協 施設×地域 ISOGOつながるネットワーク

社会福祉法人、福祉施設等の地域貢献活動や災害時の施設・地域連携等をめざし、話しあいを行います。

活動指標 社会福祉法人、福祉施設等の参加団体数
令和6年度:新規事業のためなし(めざす方向性:→)



施設つながる交流会

●区内企業と連携した地域活動や、福祉保健・文化施設等の様々な関係機関と協働しながら、誰でも参加できる交流の場や横のつながりを広げます。

事業例：区社協 **タクシー会社等との連携による移動支援**

身体的な理由等で外出が難しい人が地域のサロン等に参加しやすくなるため、タクシー会社等と連携して、会場までの移動支援を地区単位で行います。

活動指標 移動支援件数
令和6年度：2地区(めざす方向性：→)



タクシーを利用した移動支援

●区内の個人・団体・企業等から寄せられる寄付を寄付者の意向に基づき適切に配分し、寄付文化を推進します。

事業例：区社協 **善意銀行・共同募金**

区内の個人・団体・企業等からの寄付金を寄付者の意向に基づき、区内の地域福祉活動団体や障害者団体等に配分します。(善意銀行についてはP59参照)

活動指標 寄付団体数
令和6年度：85件(めざす方向性：↗)



寄付物品

●地域の仲間が増えるよう、活動に参加しやすい情報の周知を支援します。また、地域で活動する人がモチベーションを維持できるよう、活動周知や活動者・サポーター同士がつながるきっかけづくりを支援します。

事業例：ケアプラザ **ボランティアの交流支援**

地域で活動する人が情報交換し、お互いにつながりあう交流のきっかけづくりを行います。

活動指標 ボランティアの交流の回数
令和6年度：52回(めざす方向性：→)



ボランティア交流会



▶ **在宅避難のすすめ**

地震や風水害が起きたとき、自宅が安全であれば、無理に避難所に行く必要はありません。

区役所では、災害時に在宅避難するための準備や、在宅避難できない場合の避難行動、地区連合別の避難所を示した地図を記載したリーフレットを作成しています。

「何を備えておけばいいか一覧になっていて分かりやすい」
「いざという時にどこの避難所にいけばいいかが一目でわかるので便利」
「こういうのが欲しかった」などと好評の声も。

飲料水、食料、トイレパック等の備蓄品や、家具の転倒防止、感震ブレーカー等の自宅の安全対策を確認しましょう！

リーフレットは区役所総務課の窓口で配布しています。

問合せ先 区役所 総務課危機管理・地域防災担当(P61参照)



在宅避難リーフレット

▶ **災害時の共助 ～日頃のつながりが、災害時の助けあいに～**

2024年の能登半島沖地震では、地域での日頃のつながりが命を守る力になりました。

珠洲市三崎町寺家下出地区では、地震発生から約25分後に津波が襲来しましたが、住民約90人全員が高台の集会所へ避難し、命を守ることができました。この成果の背景には、住民同士の声かけや助けあいが自然に行われる関係性だったことや、普段から集会所で交流を深めていたことも迅速な避難につながりました。

鵜川地区でも、地震で家が倒れた人を近所の人たちが協力して助け出しました。東日本大震災の教訓を受けて、避難訓練を継続して実施したこともあり、住民同士がすぐに安否確認を行い、協力して救出活動を実施。障害のある人も含めて避難できました。(出典：内閣府「防災情報のページ」)

磯子区では、地域で暮らす知的障害のある人のお父さんが入院した際、ご近所の方が代わりにごみ出しをしてくれ、災害時には近隣同士でペアを組み、互いに助けあおうと約束しているという例があります。

このように、日頃からご近所同士で気かけあう関係が築かれている地域では、災害時にも自然と助けあいが生まれやすくなります。日常の中での小さな支えあいが、非常時の大きな力となることを忘れないようにしましょう。



ゆるやかな見守りの輪を広げる

～企業と連携した地域福祉の新たなかたち「いそまる」～

令和4年から始まった見守りネットワーク事業「いそまる」は、企業による地域貢献活動として、区内で着実に広がりを見せています。企業の社員が通勤途中や外出の際に地域住民とあいさつを交わしたり、業務を通じて先方の様子に気になることがあれば区社協へ情報提供を行うことで、必要に応じて区役所や支援機関へとつないでいく仕組みです。

この取組の特徴は、福祉とはこれまで縁のなかった企業と協定を結び、地域の変化をいち早く察知できる「ゆるやかな見守りネットワーク」を構築している点にあります。動物病院やタクシー会社、生命保険会社等、業態の異なる企業が登録しており、それぞれの業務を通じて地域の課題に気づき、福祉につなげる役割を担っています。

例えば、動物病院を利用する高齢者が加齢により適正な飼育が困難になった場合、社員がその状況を察知し、支援機関へとつなぐケースもあります。また、多頭飼育の家庭等、加齢により自らSOSを発信しづらい世帯にも、動物管理の視点から少しずつ関わることができるようになりました。

企業側には、社員向けの研修を通じて福祉啓発を行っており、特殊詐欺など地域の防犯情報の提供も実施しています。今後も、見守りに協力いただける企業との協定を進め、地域全体で支えあう体制づくりをめざしていきます。

問合せ先 区社協(P61参照)



フードドライブ ～「もったいない」を、「ありがとう」へ～

各家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、地域の福祉団体や施設などへ寄附する活動を「フードドライブ」といいます。磯子区では、区役所地域振興課で通年フードドライブを実施しており、食品を必要としている人へ、区社協や市内フードバンク団体を通じて、無償でお渡ししています。

「まだ食べられるのに、ごみにするのはもったいない…」と思っているあなた！環境に配慮した行動が、誰かの役に立ちます！

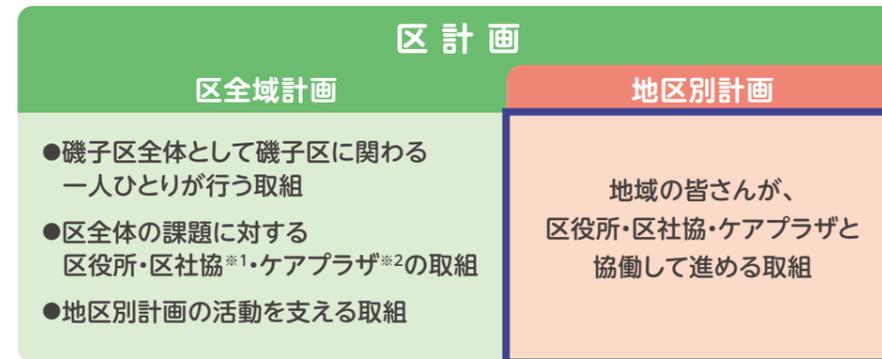
問合せ先 区役所 地域振興課(P61参照)



区役所6階フードドライブ窓口

(3) 地区別計画

地区別計画とは、9つの地区連合単位で自治会町内会、地区社協などの地域の皆さんで構成された「スイッチON推進組織」が中心となり、地区として力を入れて取り組んでいくことを中心にまとめたものです。地区別計画は、地域の皆さんが、区役所・区社協・ケアプラザと協働して進めます。



※1:区社会福祉協議会の略称 ※2:地域ケアプラザの略称

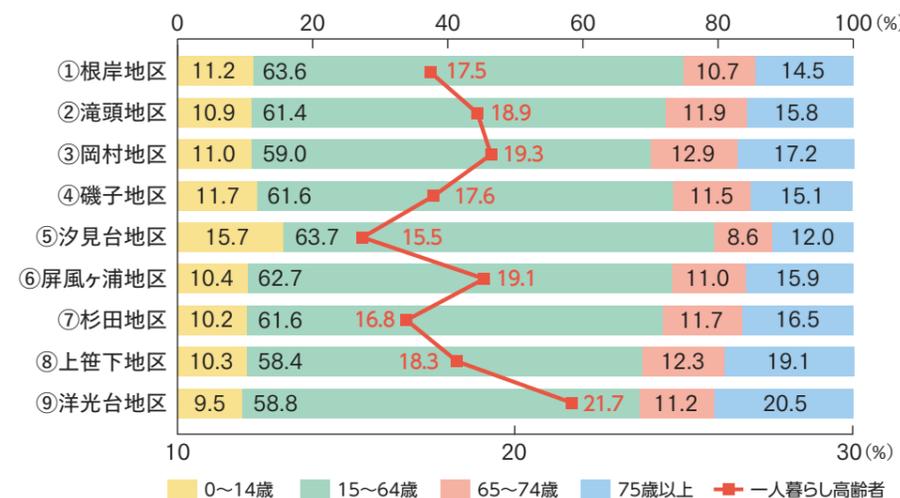
●9地区の構成



●各地区の人口と世帯数 (令和7年3月末現在)

区	人口	世帯数
①根岸地区	11,844	6,379
②滝頭地区	14,647	7,553
③岡村地区	13,445	6,507
④磯子地区	23,763	11,945
⑤汐見台地区	7,729	3,317
⑥屏風ヶ浦地区	30,081	16,015
⑦杉田地区	23,577	11,899
⑧上笹下地区	16,920	8,201
⑨洋光台地区	23,356	12,416

●各地区の年齢4区分人口の割合



出典：住民基本台帳 年齢別人口(令和7年3月末現在)/横浜市統計情報ポータル



地区の概況

- 根岸地区は、区の北東に位置し、住宅街と臨海部の工業地帯から成り、堀割川と地区を縁取る連続的な斜面緑地が広がり、ふもとは神社、仏閣が点在した落ち着いた地域です。
- 商業施設が集まるJR根岸駅周辺の地域と、古からの閑静な街並みが広がる地域があります。

人口等の特徴 人口:11,844人 世帯数:6,379世帯 令和2年からの人口増加率:0.9%(令和7年3月末現在)

人口は今後5年間で0.3ポイント増える見込みです。その後令和12~17年まで毎年0.1ポイントずつ減少していくと予測されます。年少人口の割合が区平均より0.4ポイント高く、幅広い世代が暮らしています。

進めているよ! こんな取組

- 地区内には150を超える活動があります。誰もが行ける身近な場所で、ラジオ体操、グラウンドゴルフ等の健康づくり活動、こども向けの取組などを行っています。
- 地区全体では、健民祭、防災訓練等の取組が行われており、住民同士の交流の場となっています。



様々なサロン活動



上町うらら会



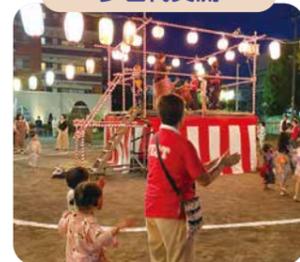
東町野点

こども向けの取組



こども食堂

多世代交流



西町お祭り

地域の悩み・こんな町にしたい!

- 困ったとき誰かに相談できるよう、地域で住民同士がふれあえる場をつくり、顔の見える関係を築きたい!
- 若い世代や外国にルーツがある人との情報伝達や交流・親睦を深めたい!
- 地域活動にたくさんの人が参加できるよう、工夫したい!

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ 今まで行ってきた見守りをさらに深め、みんなで互いにやさしい見守りができる根岸をめざします

- 地域に知り合いを増やし、困ったときは相談できる環境をつくれます。
- 見守りをしながら困りごとがないか声掛けします。

目標Ⅱ 継続した心と体の健康づくりができる輪を広げます

- 年齢を問わず健康づくりができるよう、地域全体で活動を共有、情報発信しながら取り組みます。
- 健康づくりを推進します。色々な事業に参加して心と体の健康を保ちます。(心の健康は体の健康!)

演奏会、小物づくり、体を動かす運動など、たくさんの人が楽しめる場です



お楽しみ会「和」

目標Ⅲ まちの困りごとを共有し、ささえあうまち根岸をめざします

- 活動の中の声を拾い上げ「ハッピー根岸」をはじめ地区全体の集まりの中で相談していきます。
- 地域が一つの家族となること(共感・尊重・信頼・助けあい)をめざします。
- 出しゃばりすぎないおせっかいができる町(生活の中での目配り、気配り)にします。
- 困りごとに地域でサポートできるよう、つながりを深めます。

活動内容を工夫し、もっとみんなが集える場をつくります

活動が継続できるよう、日頃から新たな人材づくりにつとめます

- 他の活動団体の取り組みを共有し、お互いの良いところを取り入れながら継続した活動ができるようにします。
- 地域で何かを得意にしている人を見つけて活動に協力してもらい活動の輪を広げます。

スマホをツールに、仲間同士教えあいながら学んでいます



スマホサロン

人にやさしく滝頭
～身近な地域で支えあいを広げよう～



地区の概況

- 磯子区の北端に位置し、東側には国道16号と掘割川が南北に並行して走り、川沿いの平坦な旧市街と西側の起伏のある丘陵部の住宅地からなっています。
- 人口密度は約150人/haと区内で最大のまちであり、外国にルーツのある世帯の増加とともに子育て世代の流入もあり、全体としてバランスが取れた多世代型の人口構成となっているのが特徴です。

人口等の特徴 人口:14,647人 世帯数:7,553世帯 令和2年からの人口増加率:△0.4% (令和7年3月末現在)

人口は、区内で中間的な位置を占め、令和8年から5年間は0.7ポイントの減少で、今後も人口減少が続くと予測されます。年少人口の割合・高齢人口・一人暮らし高齢者の割合などはほぼ区の平均に近く、外国にルーツのある世帯は平成28年からの10年間で急増しています。

進めているよ! こんな取組

- 「愛のお弁当」(配食活動)や「ふれあい喫茶」(多世代交流サロン)を通じて、支えあい・見守りを継続し、自治会町内会でのサロン等、顔の見える関係づくりをすすめています。
- 地区全体では、ふれあい盆踊り、健民祭・文化祭等の各種イベントや、こどもの居場所「こどもすまいるルーム」、中学校での地域交流体験学習等、こどもの健やかな成長に住民が取り組んでいます。
- 身近な自治会町内会では、サロン、焼き芋交流会、餅つき、グラウンドゴルフ、ボッチャ、ラジオ体操、吹き矢等、住民同士のつながりを重視した健康づくりにも取り組んでいます。



滝頭地区 ふれあい盆踊り



文化祭 作品づくり

地域の悩み・こんな町にしたい!

身近な場所でのサロン(茶話会)事業をはじめ、様々な活動が行われているため、参加者同士の見守りや近隣住民同士の助けあいも根付いてきています。また、外国にルーツのある人や障がい児者をはじめ多様な住民が交流できるような行事やイベントを工夫しながら実施し、地域全体のさらなるつながりをめざしていますが、一方で高齢化などによる担い手不足も課題となっています。

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ 誰もが安心して暮らせる地域をめざし、住民同士の参加と交流をすすめます

- 地域に暮らす高齢者や外国にルーツのある人・障がいのある方など、住民相互の見守りや支えあいの輪が広がるよう、誰もが地域の行事に気軽に参加し、顔見知りになれるように工夫します。その際、近隣自治会町内会での合同実施や対象者の拡大など、実施方法も検討します。
- 災害などの際にはお互い助けあえるよう、子育て世帯や高齢者・障がいのある方などに配慮しながら、様々な機会を通じて支えあいの大切さを伝えるとともに、防災・防犯につながる取組を継続していきます。

目標Ⅱ 地域活動の輪を広げ、みんながいきいきと過ごせるまちをめざします

- 「得意」や「好き」を生かし、誰もが地域活動に参加しやすくするとともに、地域活動が一人ひとりの心身の健康や社会とのつながり・広がりとうむきかけになることも伝えていきます。
- さまざまな組織や機関(学校・福祉施設・企業等)等とも連携し、それぞれが持つ得意分野を生かして、多様な主体が地域活動に参加できるような工夫を図ります。

目標Ⅲ 多様性を視野に入れた情報発信の方法や工夫を検討します

- 日常生活から災害等の際に至るまで、必要な情報が多様な住民にわかりやすく伝わるよう、ICT(LINE、SNS、二次元コード等)の活用を含め、多彩な方法を講じていきます。また、誰もがわかりやすい表示や表現方法となるよう検討を重ね、掲示の内容や周知方法を工夫します。



多様な住民が集う「滝頭ハロウィン」



“障がいのある方とともに”をテーマにした研修「災害に備えて」



地区の概況

- 磯子区の北西に位置し、南区と港南区に接しており、比較的起伏のある丘陵地に広がる古くからある住宅地と若い世代の戸建住宅やマンションが混在している地域です。
- 地区内には、岡村天満宮や三殿台遺跡、岡村公園、久良岐公園・能舞台等、歴史や自然を楽しめる憩いの場や施設が多く、伝統行事が受け継がれながら、交流できる場となっています。

人口等の特徴 人口:13,445人 世帯数:6,507世帯 令和2年からの人口増加率:△3.9%(令和7年3月末現在)

人口は令和8年から5年間で約4ポイント減少し、今後も人口減少が続くと予測されます。75歳以上人口・一人暮らし高齢者の割合はそれぞれ区平均を若干上回っていますが、年少人口の割合はほぼ区の平均に近くなっています。

進めているよ! こんな取組

- 「身近な場所での支えあい」のため、多くの自治会で高齢者のつどいやサロン等が開催されています。
- 「全世代の健康づくり」をめざし、防災親睦健民祭の開催や、諸団体が中心となった健康体操・歴史散歩・歩け歩け大会等も行われています。自治会単位ではグラウンドゴルフ、ラジオ体操等、地区全体で健康づくりに取り組んでいます。
- 岡村梅林梅まつり、久良岐まつり、凧あげ、桜まつり等の季節の伝統行事も盛んです。
- 地域防災では、防災スマイリングフェア・地域防災拠点での訓練等に取り組んでいます。また、女性消防隊も様々な防災活動で活躍しています。



「防災親睦健民祭」おとなも子どもも大歓声!



楽しいひととき「高齢者のつどい」

地域の悩み・こんな町にしたい!

子どもを取り巻く環境の変化等もあり、子どもや若い世代の参加が減ってきています。地域の活動はみんなで協力しながら実施していますが、ファミリー世代を含めた様々な人と情報発信の工夫をするなど、誰もが参加しやすく、つながる機会となるような取組が今後も一層必要です。

特に地域防災については、幅広い世代に関心をもってもらい、みんなで協力しあえる地域にしていきたいです。

地域のサロンや健康体操で生まれた「つながり」を大切にしながら、これからも「支えあい」「健康づくり」を継続・充実していきます。また、岡村の伝統文化や公園等の魅力を発信し、若い世代に継承しながら仲間をひろげ、「岡村愛」を地区全体で育みます。

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ 誰もが気軽に参加しやすい機会を増やし、つながりづくりをすすめます

- 多世代交流のコツ等、他自治会・団体の取組や工夫を共有し、お互いの良いところを取り入れながら活動をすすめていきます。
- ファミリー世代も参加しやすくなるよう、こどもや子育て世代等から意見やアイデアを聴き、活動の参考にしていきます。
- 様々な人に情報がいきわたるよう、学校・諸団体・関係施設等との連携やデジタル技術の活用など、世代やその人にあった情報発信を工夫します。



三世代で紙ヒコーキを楽しむ
「岡村地区 紙ヒコーキ大会」

目標Ⅱ 地域活動の仲間の輪をひろげよう

- 地域活動やボランティア活動の継続は健康維持にも効果があります。新しく参加した方が継続参加につながるよう活動の雰囲気づくりを工夫します。また、「好き・得意」を生かし、無理なく活動の仲間がひろがるようデジタル技術を活用し、情報発信や運営方法を工夫します。
- 自治会合同で事業を開催したり、各団体が協力して活動をすすめるなど、地域の状況にあわせた連携協力を工夫します。
- 子どもたちも主役となって楽しく活動できる取組を、子どもと一緒に学校・諸団体・関係施設などと連携しながら考えていきます。



みんなと一緒に体も心もリフレッシュ!
「健康体操」

目標Ⅲ 地域の防災意識をたかめ、災害の際の助けあいにつなげます

- 要援護者、障害児者、子育て世代や外国にルーツがある人等、様々な人が交流し顔見知りになれるよう、誰でも楽しく参加しやすい防災イベントの工夫をすすめます。



防災意識を高める
「防災スマイリングフェア」



地区の概況

- 丘陵地形を生かし、昭和30年代後半に計画開発された集合住宅団地で、県公社の分譲・賃貸住宅のほか、企業の寮や社宅が民間マンションに建て替えられています。
- 風致地区が指定されており、身近に斜面林等が残る自然豊かな環境となっています。
- 自治会は小規模で40を超えるため地域活動を個々に実施するのは難しいため、連合自治会を中心に7つの委員会を設けて地域活動を活発に展開しています。

人口等の特徴 人口:7,729人 世帯数:3,317世帯 令和2年からの人口増加率:△10.3% (令和7年3月末現在)

令和2～7年には人口が約10ポイント減少していますが、マンションへの建て替えが進んでいることから、この急激な減少に歯止めがかかり、人口の回復と子育て世代も増えていくと予測されます。年少人口の割合は15.7%と区内1位で、高齢化率などは区平均より低いのが特徴です。

進めているよ！こんな取組

- 見守りネットワーク事業、災害時要援護者対策事業、救命・救急・救出法講習会、健康づくり事業(ウォーキング等)、ふれあい交流会等に取り組んでいます。
- 自治会連合会が中心の、みんなの広場、エコパトロール、夏休みラジオ体操、学校と地域の懇談会等の各種事業や、地区社協によるうたの広場、健康づくり体操等、青少年指導員の夏休み作品教室等に加え、住民主体の汐見台語り処、汐見台文庫等の取組があります。
- 地区全体では、汐見台まつりや桜まつり等の恒例行事が継続されています。



コミュニケーション委員会
「みんなの広場」



子どもはぐみ委員会
「エコパトロール」



自治会連合会
「汐見台まつり」

地域の悩み・こんな町にしたい！

- 単位自治会が多く、地域住民同士の関係や関わりは希薄化が進行しており、居場所やお茶会の参加、さりげない見守り活動の取組、交流・ふれあいの場づくり等を通して、横のつながり、コミュニティづくりをもっとすすめる必要があります。
- 中高生等の若者が地域活動に興味・関心を持ち、イベント等を一緒に企画、実施する等、主体的な活動を応援できる環境を整備することが課題です。
- ケアプラザや、いそごい青い鳥等の事業所、小中学校、病院等地域にある様々な施設や機関との連携、つながりづくりを一層すすめていく必要があります。

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ お互いに認めあい自分らしく暮らせるまち

- こどもから子育て世代、高齢者、障害のある方、外国にルーツのある人などが安心して暮らすことができ、また様々な事業に安心して参加できるよう活動を充実します。
- 中高生等の若者が地域の活動に安心して参加できる仕組みづくりと支援体制を構築します。
- 福祉保健活動をしている人が安心して活動できるよう必要な情報を的確に提供し、支援体制を強化します。
- 障害者施設、小中学校、ケアプラザ、病院等と連携して情報の共有を図り、的確に住民のニーズにあった事業・イベントを構築します。



ふれあい交流会

目標Ⅱ つながりを通して健やかに暮らせるまち

- 地域において末永く健康で暮らせるよう、フレイル予防講座等を充実します。
- 健康づくりウォーキングや夏休みラジオ体操等、身近な健康づくりに取り組めるイベントなどを充実します。
- 地域において、棟ごと等、少人数で実施する茶話会などに助成して、地域のつながりの強化を図ります。
- 地域の人が気軽に集い、ふれあいを深めることができるよう、会議室使用料を助成して、地域の居場所づくりを充実します。



健康づくりウォーキング



語り処

目標Ⅲ 共にささえあうお互いさまのまち

- 日頃からのつながりや助けあいを進めるため、声かけやあいさつを行い、顔の見える関係づくりを進めます。
- 地域のさり気ない見守り活動を進めるとともに、直接訪問する等、一歩踏み込んだ見守り活動を推進します。
- 地域の方が安心して見守り活動に取り組めるような制度の充実を検討します。
- 誰もが安心して、地域で暮らせるよう災害時要援護者対策を充実するとともに、外国にルーツのある方への防災対策等の広報の充実、AEDの設置場所等を明記した防災マップを作成します。



救命・救急・救出法講座



地区の概況

- 磯子区の中央部に位置し、海側の工業地帯、国道16号沿いの平坦な市街地、京急沿線の丘陵住宅地という、特徴の異なる3つのエリアで構成されています。
- 磯子駅・屏風浦駅周辺にはマンションが多く、子育て世帯や若い単身者が多く暮らしています。一方、坂道や狭い道路が多い丘陵の戸建住宅地では、高齢化が進んでいます。
- 地域内には屏風ヶ浦地域ケアプラザ、特別養護老人ホーム、障害者施設等があり、日常的な交流を通じて地域とのつながりが保たれています。

人口等の特徴 人口:30,081人 世帯数:16,015世帯 令和2年からの人口増加率:1.0%(令和7年3月末現在)

人口は区内最大の地区です。年少人口・75歳以上人口・一人暮らし高齢者の割合はほぼ区平均です。人口は今後5年間で0.2ポイント増とほぼ横ばいですが、令和12年以降は減少に転ずると予測されます。

進めているよ! こんな取組

地区全体では

スイッチON推進委員会で「サロン梅の里」や「おでかけ梅の里」を実施しているほか、こどもや障害者とのポッチャ交流会が開催されています。



おでかけ梅の里

自治会町内会においては

それぞれが、夏祭り・ふれあいサロン・配食活動・餅つき大会・ラジオ体操・清掃活動等を実施し、身近な地域活動が活発に開催されています。



森浅間神社例大祭

学校圏域では

地域の安心・安全を高めるため、地域防災拠点で定期的に防災訓練が行われています。また、屏風浦小学校では毎年「ほっと・ナイト・夢まつり」が開催され、地区全体の交流やつながりづくりに大きく貢献しています。



ほっと・ナイト・夢まつり

地域の悩み・こんな町にしたい!

- 世代や新旧の住民、地域の福祉施設が自然に交流し、顔見知りになることが大切です。そのために、お祭りや茶話会、食事会、子育てサロン等、誰もが楽しく参加できる場をつくり、親睦を深めていきます。
- 日頃のあいさつや声かけで自然な見守りを行い、安心できる関係づくりを進めます。さらに、バンダナによる安否確認や在宅避難の備え、防犯パトロールを継続し、身近なところから助けあえる仕組みを地域みんなでつくっていきます。
- 環境美化やウォーキング、体操等の健康づくりに、誰もが気軽に参加しながら心身の健康をめざします。そのために、自治会町内会やシニアクラブ、子ども会、青少年指導員、スポーツ推進委員等が協力しあえる体制を整え、地域全体で元気なまちづくりを進めていきます。

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ 住民同士が顔見知りになる取組をすすめます

普段からまちやマンション内で会ったときにあいさつを交わし、こどもから大人まで気軽に参加できる行事やイベントを通して顔見知りの関係を築いていきます。

具体的な取組

- お祭り ●餅つき ●クリスマス会
- 敬老会 ●茶話会 ●食事会
- 配食活動 ●高齢者サロン ●子育てサロン
- 入学卒業を祝う会 ●サロン梅の里



サロン梅の里

目標Ⅱ いざという時に助けあえる仕組みづくりをします

住民同士顔の見える関係づくりをもとに、戸建てやマンションなどの違いに応じた避難行動や安否確認の方法を考える機会を増やします。また、防災訓練においても小・中学校と地域で連携して行います。

具体的な取組

- 防災訓練 ●防犯パトロール
- バンダナの安否確認訓練



地域防災拠点訓練

目標Ⅲ みんなが地域づくりに関わるきっかけづくりに努めます

こども・子育て世代から高齢世代、障害のあるなしを超えて、誰もが楽しんでもできる地域づくりを自分事として担います。そのために、自治会町内会や小・中学校、様々な活動団体が連携協力して取り組みます。

具体的な取組

- 菜園作り ●花壇の手入れ
- 清掃活動などの環境美化活動
- いきいき体操 ●ラジオ体操 ●健康マージャン
- 歩く会 ●寄席 ●バス旅行
- ポッチャ・モルック等の心と体の健康づくり



ポッチャ交流会

支えあい、明るい杉田でみな元気
～あいさつで互いを気づかうまち～



地区の概況

- 海側の工業地、低地の古い市街地、丘の上に形成された新しい住宅地に大きく区分されます。
- 杉田梅が江戸時代から有名で、今でも地区内には妙法寺、梅林小学校、大谷梅園など梅の名所があります。
- 2つの鉄道駅（JR根岸線・新杉田駅、京急線・杉田駅）を中心に、昔ながらの商店街や商業施設が集積するほか、杉田地区センター・杉田劇場・スポーツセンター・南部地域療育センターなど各種施設が多く立地しています。

人口等の特徴 人口:23,577人 世帯数:11,899世帯 令和2年からの人口増加率:△1.2% (令和7年3月末現在)

人口は区内3番目に多い地区です。14歳以下の年少人口の割合は区平均に対し0.7ポイント低くなっています。75歳以上人口の割合は16.5%で区平均に近く、一人暮らし高齢者は区平均に対し1.8ポイント低い状況です。

進めているよ! こんな取組



防犯・防災パトロールや小学校見守り隊等、地域の安全・安心につながる自治会の取組が幅広く実施されています。



健民祭、夏祭り、梅まつり等、地域行事が盛んで、世代を問わず多くの方が参加されています。



元気づくりステーションが5箇所もあり、健康づくりの活動が盛んです。

地域の悩み・こんな町にしたい!

- 杉田地区は、杉田梅で知られた地域です。保存活動に関わる人を増やし、文化・伝統の継承や自然環境をみんなで大切にしていきたい。
- 起伏に富み、狭い道路が多いので、災害時に備え、高齢者・子育て世代・障害者等の助けあいができるような町にしていきたい。
- 高齢者の活動がとても盛んなので、より充実させるための工夫をしていきたい。
- こどもの数は減少傾向にありますが、地域全体でこどもとその家族を支える仕組みをさらに広げ、より安心できる町づくりを進めていきたい。
- 地域活動の担い手を増やすために、町内会の枠を超えたイベントや新しい仕組みづくりに取り組んでいきたい。

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ お互いを認めあい自分らしく暮らせるきっかけづくりをしていきます

あいさつ

ゴミ拾いや草刈り、あいさつ運動等の地域の取組により、新たな出会いやあいさつの機会を生みだします。

交流

年代・性別・障害の有無の違いを超えて参加できる、防犯パトロール、防災訓練、ラジオ体操といった既存のイベントへの参加者を増やすとともに地域での交流を図ります。

話しあい

高齢者・子ども・障害者・外国籍の人といった対象に合わせて関心のあるテーマを設けてコミュニケーションを図る機会をつくります。



あいさつマスタースタンプラリー

目標Ⅱ つながりを通して健やかに暮らせる仕組みづくりをしていきます

気軽に参加

夏祭りや梅まつり等、世代や障害の有無、住んでいる町会に関係なく参加できる活動や行事を増やします。

やりがい

人とのつながりを感じながら役割をもって参加できる活動や行事をつくります。

健康づくり

地域の健康づくりの意識を高めるとともに、楽しみながら健康づくりと交流を図れる健民祭を盛り上げていきます。

情報

地域の情報を多くの人に知ってもらえるようSNSの活用、多言語への対応等、対象となる人に合わせた情報発信の工夫を行います。



杉田東部町内会もちつき大会

目標Ⅲ 共に支えあうお互いさまのまちとなるよう取組をすすめます

見守り

日ごろのあいさつ、防犯パトロールなどを通じて顔見知りを増やし地域全体の見守りにつなげていきます。

安心・安全

地域の垣根をこえてお互いのまちを知り、災害時安否確認バンダナを用いた訓練や救命講習等を実施し、誰もが安心・安全に暮らせる地域をめざします。

仕組みづくり

多様な人たちが気軽に地域と関われるようなきっかけを増やし、将来的に次世代の担い手として楽しく活動ができるような仕組みをつくっていきます。

子育て

地域全体で子育て世帯を見守り支えあうことで、子どもたちが健やかに成長し、保護者も安心して子育てできる環境づくりをめざします。



梅林小学校「地域防災拠点訓練」



自然とともにつながりのあるまち上笹下
～魅力を発見していこう! 知って楽しもう!～



地区の概況

磯子区の南端に位置し、金沢区・港南区・栄区が隣接し、県道笹下釜利谷道路が通る南北に長い地区です。また、6神社を中心に六ヶ町として発展した歴史のあるエリア、円海山や大岡川の清流等に恵まれ、農業専用地区もある自然環境エリア、戸建住宅やマンションの多い住宅街エリア等、様々な要素が集まっている地域です。

人口等の特徴 人口:16,920人 世帯数:8,201世帯 令和2年からの人口増加率:△1.9%(令和7年3月末現在)

令和2～7年の人口減少が区の平均を0.4ポイント上回り、今後も人口減少が続くと予測されます。また、高齢人口、特に75歳以上人口の割合が区平均に比べて2.4ポイント上回り、区内2位となっています。

進めているよ! こんな取組

- 地区全体で「土とのふれあい」や「スポーツフェスタ(健民祭)」「わいわい食堂(子ども食堂)」等に取り組み、幅広い世代を対象とするつながりづくりや健康づくりの機会になっています。
- 身近な自治会町内会等でも、夏祭り・秋のフェスタ・おひな様の会等の季節の行事、また、高齢者向けの昼食会や見守り訪問等を実施しています。

町内対抗競技は大盛り上がり! /



健民祭(玉入れ)

人形を並べるのは
みんな住民の有志。
できる時にできることを
無理のない範囲で参加できるから
参加する人達が増えて
顔見知りの関係も
広がったよ。



おひな様の会

地域の悩み・こんな町にしたい!

- 地域活動の参加者が固定化し、子どもたちやファミリー世代の参加が減少しています。子育て世帯を取り巻く環境変化や、若い世代のライフスタイルの変化に寄り添いながら、希薄になりつつある地域と子どもたちとのつながりを豊かにする必要があると感じています。
- 地域活動をする人が高齢化しているので、今後、若い世代を含め様々な住民とどうつながり、ともに活動できるかを模索し、活気ある地域にしていきたいです。

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ 多様な住民の参画により、地域性豊かで魅力的な地域づくりを継続します

- 多世代の担い手やコーディネーター役の確保、実施内容の工夫等、創意工夫を積み重ねながら、地域の特性を生かした交流事業を継続して実施します。



土とのふれあい(収穫)

収穫後に芋ご飯と豚汁が
ふるまわれることも…



わいわい食堂(子ども食堂)

美味しいカレーが大好評!
毎日にぎやかな声が聞こえます

- 地域活動やボランティア活動は心身の健康維持に効果があるだけでなく、社会とのつながり・広がりも期待できます。それぞれが持つ「得意」や「好き」を生かして、気軽に地域活動へ参加、活動できる機会を設けられるよう、参加方法や情報発信についても工夫します。

目標Ⅱ 子ども・青少年などが積極的に関われ、活気ある地域づくりをすすめます

- 未来を担う子どもたちが多様な体験を通じて成長できるよう、地域全体で支える機会を増やしていきます。その際、企画・運営に携わる場を設けるなど、楽しく積極的に活動できる工夫を検討します。
- 子どもたちや子育て世代の声を聴き、意見やアイデアを積極的に取り入れることに努め、ともに考え、解決をはかります。子どもたちがいきいきと楽しく参加し、取り組む活動を通して、地域全体が元気になることをめざします。

目標Ⅲ 住民同士の交流をさらにすすめ、災害等に強いまちづくりを強化します

- 安心して暮らせる地域であるために、隣近所をはじめ身近な住民と顔の見える関係づくりを心がけ、人と人のつながりを育てていきます。その際、各種団体や学校、企業等地域にある様々な施設や機関と協力し、無理なく効果的な事業実施を図ります。
- 防災意識を高めるために、住民一人ひとりの自助の取組の大切さについて啓発に努めます。また、災害に備えて日頃からさりげない見守りができるよう、安否確認や避難訓練・在宅避難等について関係機関と協力し、周知を図ります。



災害に備えて(起震車体験)



地区の概況

- 区の南西に位置し、JR洋光台駅を中心に戸建住宅地と集合住宅地から成り立っています。
- 昭和45年に開発されてから55年が経過し、世代交代の時期を迎えています。
- 公園が多く緑化がすすんでおり、清掃活動等によりきれいに維持・管理されているため、町全体が落ち着いています。

人口等の特徴

人口:23,356人 世帯数:12,416世帯 令和2年からの人口増加率:△2.2%(令和7年3月末現在)

人口は令和8年度から5年間で約3%減少すると予測されます。年少人口の割合は9.5%と区平均より1.3ポイント低く、高齢人口の割合は31.7%(内、75歳以上人口20.5%)で、区内で最も高くなっています。

進めているよ! こんな取組

洋光台 フィットネス



いつまでも健康で!!を願い作ったオリジナル体操。地域の様々な行事で皆様と楽しんでいます。

梅の里まつり 抹茶サロン



梅の花と香りを楽しみながら、呈茶席で抹茶と和菓子を頂く、非日常的な雰囲気での交流の場です。

災害時 要援護者の 訪問



災害時要援護者名簿に基づき、訪問員が見守りを行い、顔の見える関係性を築いています。

ちびっこ広場 (ケアプラザ)



自治会館をお借りした、出入り自由の子育て広場です。子育て支援者の情報交換の場にもなっています。

地域の悩み・こんな町にしたい!

- 地域活動の参加者が固定化し、高齢化に伴って参加者数が減少しています。
- 子ども向けの取組の情報が子育て世代に十分に行き届いていないという声があがっています。
- 地域活動をする人が高齢化しており、若い世代をいかに巻き込むかが課題となっています。

第5期計画で力を入れたいこと

支えあいの推進

～地域全体で支えあい、安心して住めるまちに～

- あいさつを通して隣近所の人とお互いに気にかけてあおう
- 日頃の習慣の「ついで」に地域全体で防犯・見守りをしよう
- 防災訓練への参加や災害時要援護者の見守り訪問を通して、災害時に助けあえる体制をつくろう



総合防災訓練

健康づくりの推進

～高齢者が元気で長生きできるまちに～

- 体操、モルック、グラウンドゴルフ、ボッチャ、合唱等の身近な活動で楽しくつながら、心も体も健康に過ごそう



ボッチャ

活動を広げる

～みんなが気軽に活動に参加でき、交流が広まるまちに～

- 誰でも気軽に活動に参加できるように、どんな工夫ができるかを様々な人と話しあおう
- 自治会町内会の掲示板・回覧版・広報誌や、SNSを活用して地域情報を届けよう
- 他の自治会町内会や関係団体と連携してイベントを開催し、交流の輪を広げよう

～若い世代も活躍できるまちに～

- 子どもから大人まで、一人ひとりの得意を生かし、「やりたいこと」から始まる主体的な活動を展開しよう
- 役割分担や活動時間を工夫して地域活動に参加するきっかけを作ろう



HAPPY★ハロウィン in 洋光台

～子どもたちが笑顔で育つまちに～

- 子育て世代が中心となって、子どもたちの興味・関心を引く取組を増やし、より一層洋光台に愛着を感じてもらえるようにしよう



駅前公園プレイパーク